

## 【小論文】

問題 後記の資料1及び2を読んで、次の質問に答えなさい。

(1) 資料1に登場する、アーミッシュ学校襲撃事件と山口県光市母子殺害事件について、

①被害者の対応について説明しなさい。

②その違いについて解説しなさい。

(2) 資料2のわが国における無差別殺人事件等も念頭において、このような事件について、司法と法律家の役割にも言及しつつ、あるべき社会的解決策や対応についてのあなたの考えを述べなさい。

資料1 朝日新聞 2009年7月8日オピニオン 対談「犯罪とゆるし」

自動車や電気を拒み、非暴力を貫く米国のキリスト教の一派、アーミッシュ。06年秋、彼らの学校を男が襲い、女兒5人を射殺した。惨劇の直後、彼らは自殺した犯人の家族を訪ね、「ゆるし」を伝える。不寛容が襲う世界を驚かせた行動は何を教えるのか。ノン・フィクション作家、柳田邦男さんと、米国の研究者、ドナルド・クレイビルさんが語り合った。

柳田 凶悪な犯罪でも即座にゆるす。我々の文化では考えられないが、それがアーミッシュの最も本質的な部分と知って、大変驚きました。「報復」という言葉が支配的な時代に、宗教的な「ゆるし」の信念がしっかり根づいているアーミッシュの存在は、刺激的です。

クレイビル 米国の心理学的研究によると、ゆるし（フォーギブネス）には二つの段階があります。まず、被害者が苦しみや憤りをできるだけ自分から語ることによって、痛みを心の中から追い出してしまふ。次いで、報復行為をすべてあきらめるのです。いずれもとても苦しい仕事ですが、被害者にとって利益につながると最近わかってきました。幸せな気持ちになれば、血圧まで下がるという。

重要なのは、「ゆるし」は、罪を犯した者を捕まえて償わせる司法とはまった

く違うということです。アーミッシュは厳格に区別します。学校銃撃事件の犯人は自殺しましたが、「もし生きていたら」と彼らに聞くと「刑務所に行くべきです。でないと、またほかの子どもが撃たれる可能性がある」とみんな言いました。「私たちは犯人をゆるすが、それでも彼は司法により裁かれて刑務所に入るべきだ」というアーミッシュの区別はとても重要です。「ゆるし」と司法的な観点を混乱させている人が多いが、「ゆるし」は赦免ではない。

柳田 ゆるすことによって自分の心が癒やされ、解放される。アーミッシュの人たちは、もしゆるさなかったらいつまでも悲しみを引きずり、あるいは健康を損なうほど悲しみをためて、恨みが続いていくと考えているのでしょうか。

クレイビル もしゆるさなければ、自分たちが神様にゆるしてもらえない、という宗教的な理由があります。永遠の救いは「ゆるし」に関係しているという、とても強い動機づけがあるんです。

柳田 銃撃事件の際、米紙の論説委員が、自分の子どもが殺されても、犯人をゆるして平気でいられる社会に我々は住めるのか、という論説を書きました。

クレイビル 覚えています。

柳田 日本の社会でもまったく同じです。山口県光市で 99 年に起きた母子殺害事件では、第一審、第二審は、犯行時 18 歳だった被告を無期懲役にしました。被害者の夫は、死刑でないのはおかしいと裁判所や社会に訴え続け、世論やメディアもそれを後押しした。最高裁は審理を高裁に差し戻し、昨年、差し戻し控訴審で死刑判決が出ました。裁判所は正義を貫いたと夫は納得し、メディアも当然の判決と歓迎した。

この事件は、凶悪犯に対して一般の日本人がどういう感情を持つかを象徴的に示しました。でも、悲惨な生い立ちが被告の人格形成をゆがめたことを考えれば、被告が人生をやり直せるような道を開くべきではなかったかという観点からの意見も、少数ですが、あるんです。

クレイビル 米国にも 20 年ほど前からリストラティブ・ジャスティス（修復的な司法）という仕組みがあります。あまりに暴力的な犯罪には使われませんが、被害者と加害者が合意すれば、専門家が仲をとりもって、被害者は犯罪で受けた苦しみを、加害者はそれに対する思いを互いにぶつける。そこで加害者が後悔の念を示して謝罪を表明したら、刑期が短縮される。加害者は早く出所した分、働いて被害者に弁償するのです。

この仕組みは「ゆるし」とは違います。刑は実際に執行されるから、赦免でもない。ただ、加害者はどんなに人を苦しめてしまったかを知ります。被害者にも「犯人も同じ人間だったのだ」ということがだんだんわかってくるわけです。

柳田 私はグリーンワーク（悲しみの緩和）を研究しています。病気や災害、事件・事故で大切な人を失ったら、残された人は喪失感の中でこれからどう生きるかを探さねばならない。大変難しく、つらい仕事ですが、加害者や過失責任者が非を認めなかったり、反省せず自分を正当化したりすると、被害者はますます怒りを感じて、悲しみが深くなり、つらさも倍加する。グリーンワーク

の歩みが阻害されるのです。アーミッシュの場合は被害者が自ら積極的に相手をゆるすことによって、自分がグリーフワークをする条件を整えていくのですね。

クレイビル その通りです。銃撃事件の最中、犯人は奥さんに携帯電話で「神に怒っている」と伝えました。9年前に彼の幼い娘が死にましたが、犯人は娘の死についてグリーフワークをしてこなかった。その結果、怒りがほかの女の子を殺すことに向かってしまったのです。

柳田 今の社会を支配している報復主義を象徴しているようですね。それに対してアーミッシュの「ゆるし」は対極にあります。とても思考を揺すぶられます。ゆるすかゆるさないかの中間に、何か選択肢があるのではないのでしょうか。

クレイビル アーミッシュは米国の中でも、とてもユニークな存在です。宗教を基盤とする対抗文化的なコミュニティで、その中核をなす信念が「ゆるし」にあるわけです。ですから、現代社会のモデルにはなり得ないかもしれません。ただ、興味深かったのは、事件が起きたときにほとんどの米国人が「何てすばらしい。みんながこのようにゆるせば、もっと幸せな、平和な世の中になるだろう」という反応を示したことです。ふつうの人たちはアーミッシュにはついていけないと感じているにもかかわらず、とても心の通ったことをしてくれた、そこにあこがれるということですね。

柳田 85年に日本航空のジャンボジェット機が群馬県の御巣鷹の尾根に墜落して520人が亡くなりました。その後、日航と犠牲者の遺族とはずっと対立してきました。私は05年に日航から安全アドバイザーを依頼された時、遺族との和解をどうすればいいかと考え、事故機の残骸や遺品を展示し、社員の安全教育に役立てるよう提言しました。それで残骸や遺品を展示する安全啓発センターが羽田空港の整備地区にできた。すでに3万6千人の社員がそこを訪れ、自社と世界の事故の歴史や安全のために忘れてはならない経験を学んでいます。そうしたら遺族と日航の関係が大きく変わりました。

クレイビル 安全啓発センターをつくったことが、両者の間を縮めていったのですね。中間点を探して儀式化したということでしょうか。

柳田 儀式化ではなく、繰り返してはいけないことを、新しい世代も血肉化する意識改革の学びの場です。

クレイビル 国際的にも興味深いので詳しい資料が欲しいですね。米国では、多くの人々がベトナム戦争は間違いだったと思い、戦死した兵士の遺族は今もとても怒っています。しかし、政府は決して謝罪はしない。そこで遺族たちは寄付金を募ってワシントンに追悼碑を建てた。首都にこのような施設を建てることを、政府が許したのです。それは、戦争で亡くなった人たちに政府が敬意を抱いていることを表したのと同じです。これも中間点を探す試みだったと言えるのではないのでしょうか。

柳田 日本では小中学校時代にいじめを受けた子が、卒業後に出身校へ押し入り、子どもや職員を殺傷する報復事件が少なからずあります。国際社会にお

ける報復と同じようなものです。我々は報復が正当化される社会、文化の中で生きている。そういう凶悪犯をただ責めるだけでは本質的な解決にならない。生きづらい競争主義、優勝劣敗の社会や価値観そのものを変えないと、こういう事件を根本的に防ぐことはできないのではないかと。そういう意味では、アーミッシュから学ぶべきことは大変多いと思います。

クレイビル アーミッシュは、宗教は復讐ではなく、「ゆるし」であり、心の平安なのだということを示している。では、そうした価値観をどのように子どもに教えていくのか。アーミッシュに「なぜゆるすのですか」と聞くと、「我々の社会の中でそう決まっているのです」と答えます。独特の服装や言語、文明の利器を選択的に使う生活習慣という強いシンボルに特徴づけられた社会の中で子どもたちは育ち、教師や親たちから社会的な価値を教えられていくのです。

柳田 子どもの頃から宗教的倫理観や生活習慣を養っていく意味は、現在の日本社会でもとても大事だと思います。それは、仏教とかキリスト教とか特定の宗教の中で育つということではなくて、もっと日常の心の習慣を養うことにかかわることです。「ゆるし」は、それを生む基盤となる社会なり文化が問われる。しかし、現代は非常に合理主義的で、規則やマニュアルに支配されていて、「ゆるし」が生まれたり、被害者と加害者が折り合いをつけたりすることが難しい時代ではないか。「ゆるし」の問題を考えることは、我々が生きている社会の文化を考えることでもあるかもしれません。

## 資料2

### ○大阪パチンコ店放火事件

41歳の男性が2009年7月5日に雑居ビル1階のパチンコ店に放火した。店内が全焼し、5名が死亡、19名が重軽傷を負った。

### ○秋葉原無差別殺傷事件

25歳の男性が2008年6月8日に秋葉原の歩行者天国に小型トラックで突入し、通行人5名をはねた後、トラックを降り、通行人ら12名をナイフで次々と襲った。7名が死亡し、10名が負傷した。

### ○土浦無差別殺傷事件

24歳の男性が2008年3月19日に72歳の男性方に侵入し、自宅前で首を刺して殺害し、指名手配中の3月23日にJR駅構内等で、通行人を次々と刺した。1名が死亡し、2名が重体、5名が軽傷を負う。

### ○大阪・池田小事件

37歳の男性が2001年6月8日に大阪教育大学附属池田小学校に凶器を持って侵入し、児童8名を殺害し、児童13名及び教員2名を負傷させた。